

# 遷宮行事の 思い出と期待

地域の行事や祭りで得られる  
仲間と築き上げる喜びや高揚感

松月秀樹さん「高向共盛団・陸曳」



とわたしが  
神宮さん  
のまぢ  
伊勢大  
好き



平成25年のお白石持行事のときは大学生だった松月さん。当日は午前中に講義を受け、午後から外宮奉獻に参加しました。同級生と再会し、久しぶりに語り合えたこともいい思い出です。令和8年からのお木曳行事で、松月さんは青年木遣りを任せました。「お白石持で見て憧れていた役回り、精一杯がんばります」。

「高向共盛団」は毎年2月の御頭神事を執り行うまちの組織。松月さんは令和7年の神事で団長を務めました。「歳が離れている世代ともコミュニケーションが取れるのはうれしいですね。一つのを築き上げていく喜びや高揚感があります」。祭りを継承し、御遷宮行事で絆を深めています。



神社の伝統と人脈を先輩から  
次の世代へとバトンを繋ぐ  
磯田文隆さん「神社港辰組奉曳団・陸曳」

お木曳・お白石持行事を木遣り担当として盛り上げた磯田さん。伊勢河崎の天王祭や猿田彦神社の大神輿巡行など市内の行事にも出掛けています。活動のきっかけは青年団「伊勢辰組」の存在。「上下の繋がりができる中、頼りになる先輩がいて『何があっても責任は取るから』と自由に動かしてもらいました」。

毎年10月、神社港では愛知県篠島から神宮に干鯛を奉納する御幣鯛船を迎えています。園児が花束を贈呈し、小学生が木遣りで歓待。「次の御遷宮で主役になる子どもたちに多くのことを経験して欲しい」と磯田さん。

先輩から受け継いだ思いを、次世代に伝えていきます。



雲井慎也さん「小俣町奉曳団・陸曳」

初参加となった前回の御遷宮からさらに地域一体となってご奉仕を

前回の御遷宮より新たにお木曳・お白石持行事に参加した小俣町奉曳団。市町村合併の一年前に旧町が主体となって奉曳団が立ち上がり、お木曳では1200人が参加し、雲井さんは艇子部の副部長を務めました。また、伊勢神宮奉仕会青年部にも入り御遷宮行事の理解を深め、初めての奉曳で大役を果たしました。「他の団のエンヤ曳を、奉曳のある日は毎回、外宮の北御門で見学しました。新参者の私たちを宮川町さんが親身になって指導してくれて、無事成功させることができました」と感慨深げ。

町の体育祭などでも若い世代が運営に尽力していて、今後に期待が持てると話す雲井さん。小俣町として御遷宮行事をどう根付かせていくか、次こそが本番です。



## 宮町奉曳団【みやまちほうえいだん】



第1・3日曜の夜、木遣りの練習に通うのは4歳から小学5年生までの子どもたち。通学路で唄うほど木遣り好き「な子もいて、その唄声に惹かれて参加を決めた子もいるようです」。

人前で声を出すのも勇気がいることですが、そんな恥ずかしさを打ち破るため、とにかく繰り返し唄って、音を体に馴染ませます。「お腹から声出してみて詰まってもいいから全力で。間違えた方が勉強になるよ」と木遣り指導の山路毅さん。

二人ずつの練習で息を合わせるコツを掴み、節回しの強弱も身につけます。最後は外に出て車の走る音に負けないよう、精一杯の声で唄い上げました。

## 大湊子ども木遣り保存会【おおみなとこどもぎやまりほぞんかい】



令和5年の初穂曳では川曳を担当した大湊地区。その一年前から始めた木遣りの練習を、ずっと継続しています。子どもにも混じって大人も練習。「大湊に嫁がれて、すっかり地元民となってお子さんと一緒に参加してくれる人もいます」と木遣り指導の中北文雄さん。

唄声を響かせる小学4年生の2人は「学校でこんな大きな声を出すことがないから、楽しいです」と元気いっぱい。「みなと」の采は、地面に付いたらあかんよ。神さまのお社と同じ木でできてるから、地面手前で止めて回して上げる」と陸も川も曳く采の特徴を説明し、内宮・外宮で奉曳する大湊の誇りを伝えています。



### レポート

## お木曳にむけて がんばる子どもたち



## 岡本町奉曳団 【おかもとちょうほうえいだん】



岡本町では、本木遣りを子どもたちが担います。昨年10月から練習がはじまり、今年からは週に一度。集まったのは声変わり前の小学3・4年生の6人です。本番は3人1組、唄はソロで担当しますが、全ての歌詞をみんなで覚えます。

「高い声は出しにくいけど、何度も唄って自信をつけたら、もっとはつきり聞こえるようになるし、ゆっくり慌てなくていいから。区切るところでしっかり止まると、唄もよくなるよ」と木遣り指導の正木良英さん。歌詞を貼ったボードの前で身振り手振りでわかりやすいよう、音程の細かな部分を指導し、岡本の伝統を子どもたちに伝えていきます。

伊勢御遷宮委員会では、民俗行事の情報を公式Instagramで発信しています。公式Instagram▶



### 【職場訪問】

## 近鉄グループホールディングス 伊勢志摩支社 執行役員 山本寛さん



令和6年の初穂曳に、5年ぶりに参加した近鉄グループ。伊勢志摩の業務に携わる約30人のグループ社員が外宮領陸曳で奉曳されました。「私自身初めての参加で、地元の方の意気込みや行事に対する真摯な気持ち、そして後世に受け継いでいくという熱い思いを感じました。また、今回参加していた小学生の姿には、伊勢を誇らしく思う気持ちが漂っており、非常に印象的でした」と山本支社長。

いよいよ今年から御遷宮の諸祭行事が始まり、今回の御遷宮では、前回を上回る参拝者が予想されます。「伊勢の地を訪れるすべての人々にご満足いただけるよう、地元の方々との連携を深め、相互に協力しながら、近鉄グループとして万全の準備を進めています」と力強く語ってくれました。



## 艇子方



お木曳行事において、奉曳車やソリの近くで艇子棒や艇子縄を手に活躍する艇子方は、奉曳の舵取りを担う重要な役どころです。陸曳では外宮北御門前、川曳では流れが急な堰越えや宇治橋下の川から陸へ上がる時など、勢いよく曳き入れる場面が一番の腕の見せ所。しっかりと方向を見定め、何よりも安全第一を心がけて、舵を取ります。

また艇子方は、お木を奉曳車やソリに綱で固定する「荷締め」も担当し、しっかりと固定しないと荷崩れがおきてしまうため細心の注意を払って取り掛かります。まさに縁の下の力持ち。



無事奉曳を終えて、荷解きをするときは曳き手の注目が一気に集まる中、素早く作業。このように奉曳の舵取りや荷締め技術がそれぞれの団に受け継がれています。